



# 上原だより

渋谷区立上原小学校  
校長 佐伯 孝司

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240>

目標に向かうプロセスを輝かせる「振り返り」

校長 佐伯 孝司

たいへん暑い日が続いていますが、引き続き児童の安心・安全に配慮しながら夏休み明けの教育活動を進めてまいります。9月は前期のまとめの時期になります。残り少なくなってきた前期、思い切った挑戦をしながら、その過程を振り返り、自分のよさ、共に学ぶ仲間のよさ、支えてくれる方々の温かさを、児童には感じてほしいと思います。

本校では、この「振り返り」を様々な活動の中でも大切にしています。目標を達成したかどうかということだけでなく、なぜ目標を達成できた（できなかった）のかを考えることなどが、大きな力になるからです。目標に向かうプロセスで、よかったことや改善点を見出し、もっとよい方法がなかったのか、そもそも目標が適切であるのかなどを考え、次の活動をよりよいものにしていくよう見通しを立て直す力を育てます。この力が「自己の学習を調整する力」になっていきます。「すすんで」「粘り強く」試行錯誤をしていく態度がこの力を支えます。

元陸上競技選手で400mハードル日本記録保持者の為末 大（ためすえ だい）さんが、こんな言葉を残しています。

成功者の言葉しか世の中には残らないから『やればできる』が格言になる。

夢は叶わないかもしれない。

叶える為の努力は無駄に終わるかもしれない。

でも何かに向かっていた日々を

君は確かに輝いて生きていたのではないか。

それが報酬だと思わないか。

「やればできる」という強い気持ち、「やってみる」いうチャレンジ、「できるまでやる」という粘り強さも大切です。一方で、やってみて「これとこれは成果が出た」「これはまだ足りない」「こうすればよかったのでは」と気付き、考えることは、たいへん重要なことです。活動を自らの力でつくり、進めているという手応え、共に学ぶ仲間がいるという楽しさや喜びを感じている児童の姿は、「確かに輝いて生きている」姿です。目標を達成するまでの多くの時間は、まだ達成していない自分の状況を受け止めながら前に進もうとしている時間が続くものです。そのプロセスにこそ価値を見出し、輝いている、輝いていたと自ら振り返る児童を育てたいという思いは、上原小の教員一同共通の思いです。



5年生のシブヤ未来科の授業に渋谷教育学園渋谷高校の生徒さんが来てくださいました。高校生が自ら学び、活動するプロセスに直接触れ、その姿から多くのことを学びました。

前期の終わりが近付く9月、「振り返り」の価値を見直しながら、児童自身が目標と見通しをもつこと、振り返って次につながるよう調整を図ること、粘り強く取り組むことを大切にしたいと思います。振り返ったことを次の「ともに学び ともに生きる」教育活動に生かしていきます。



共に学びながらも考え方や方法は様々。しっかりと振り返って次につなげます。

